

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970800694		
法人名	株式会社 フレンド		
事業所名	グループホーム ふれんど		
所在地	栃木県小山市羽川524-1	電話	0285-20-6211
自己評価作成日	平成 23年 7月 6日	評価結果市町村受理日	平成 23年 9月 1日

※事業所の基本情報は、

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27	小牧ビル	3F
訪問調査日	平成 23年 7月 29日	評価確定日	平成 23年 8月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> * 清潔感のあるホームであるよう心がけています。 * 季節の花が庭先や鉢植えで咲くようまた、畑には野菜を作り食卓に提供できるように季節を感じていただくよう工夫しています。 * 入居者・ご家族・スタッフの信頼関係を大切にしています。 * 入居者同士が仲良く励まし合い、時には慰め合い助け合えるグループホームになるよう、日々奮闘しております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は薬局や福祉事業を県内外に広く展開している(株)フレンドの敷地内にあり、グループホームに隣接して病院や同法人の薬局、デイサービスセンター、小規模多機能施設などがある。管理者・職員は運営理念を「利用者の安全を守り、自立・自発性を引き出し地域社会とのつながりを大切に、楽しい暮らしを支援する」を下に理念を作り、法人の周辺環境を活用して利用者者にサービスを提供している。3事業所は毎年継続的に合同でイベントを開催し多くのボランティアを受け入れるなど、福祉施設を地域資源としてアピールしながら、地域住民の理解と信頼と協力が得られるように努めている。又管理者、職員は感染症予防・身体拘束・プライバシー・認知症や、医療・介護の社会資源と役割など、研修を重ね、スキルアップに努めながら、利用者や家族と地域の福祉を支えている。震災時の避難では多くの教訓を得た。芽生えつつある「ご近所力」活かし協力関係を築く第一歩となる事を期待します。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・ホームの理念・指針は、ご家族を含め来訪者のご理解をいただけるよう玄関に掲示し、ホームの理念・職員の心得については、毎朝の朝礼にてお互い・個々に確認しながら実践につなげています。	理念は開設時に管理者と職員が話合っ、利用者が「地域の中で安心して楽しい暮らしが出来るように支え続ける」事を第一に考えて作った。朝の引継ぎ時には「理念」「職員心得」を唱和して互いに業務を振り返り、理念を共有すると共に職員自らキーワード「笑顔」に決めるなどして実践している。	理念 1、「自発性・自立性を高め、向上心を引き出す介護」 2、「個々のスキルと地域社会との繋がりを大切に介護」 3、安全を守り、生活を楽しまゆりの介護
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への貢献を常に思い、地域の方との関わりを大切にしながら、イベント案内や自治会行事への参加・ボランティアの方に協力をいただいている。また、併設する事業所と合同でのイベントを開催している。	事業所は常に地域との繋がりを大切に、イベントの開催に地域の方を招待して喜ばれたり、地域の祭りでは神輿の休憩所を提供するなど、積極的に関係の継続に努めている。職員も地元の人を優先的に採用するなどして、地域との関係を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の支援に関して、事業所発信型の情報提供は充分でないと思われる。今後、すでに開催しているイベントの内容を工夫して、出来ることを検討していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方に運営推進員として加わっていただき、共にホームの情報を発信しながらご意見等を伺いサービス向上につなげています。	利用者・家族代表・包括支援センター・桑中学校長・地域代表・が出席して定期的開催している。現状報告や、ボランティア・行事・外部評価や桑中生徒の職場体験学習についても話された。今後は議題により、警察署員、民生員などを迎え意見を聴き利用者のサービス向上に活かしたいとしている。	運営推進会議は事業所の取り組み内容の理解と支援を頂く機会です。活発な討議を進めるために、メンバーに議題の事前通知をすることにより、事業所の課題を率直に話しあい、意見をもらい具体的にサービスの向上に活かされることを期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から事業所の状況その他の報告を行い、疑問点については意見をいただきながら、利用者処遇に活かしている。	日頃から市の担当者・窓口と接触する機会を作り、運営上の問題や現場の実情を逐一報告・相談しアドバイスを受けるなどし、積極的に問題の解決を図っている。震災時の緊急避難対応や新規の事業所開設に伴う管理者研修の問い合わせなどでアドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修などを通して、全職員で身体拘束の弊害を理解し昼夜共に見守りを重視し、常に声かけの実施をすることにより、拘束の必要がないケアの実践に努めています。	身体拘束排除の取り組みなどの社内研修を行い、職員は身体拘束の弊害について理解しケアの実践を共有している。常に寄り添い、見守り、声かけから本人本位の立場に立って拘束のないケアを実践している。防犯意識から自室を内ロックする利用者には見守りや寄り添いで、不安感を抱かないようにケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『虐待』については、自分自身の身になり『されたらいやなこと』『して欲しくないこと』を各自が認識を持ち、話し合いお互いをお互いの目で注意できるよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に積極的に参加し、理解を深め活用に繋がるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご家族を含め十分な説明を行うことに留意し、ご理解を頂いたうえで契約締結を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に面会に来ていただけるよう家族様にはたらきかけ、要望が伝えやすい雰囲気作りを心がけています。	運営推進会議に家族代表が出席している。1/月の小口清算時や、家族が訪問した折には暮し振りを報告し、利用者・家族からの意見や希望を引き出すようにしている。希望の外食先や好みなどを取り入れてサービスの向上に活かされている。8月から広報誌の発行を計画している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催される定例会議において、各職員が意見や提案をする機会を必ず作っている。会議の司会も交代制とし、各職員が議題を提案する内容としている。	月一回定例会議は職員主体で行われ、職員が議題の設定や進行を交代で受持ち意見や提案を具体的に運営に反映される仕組みを作った。職員は自主的に「笑顔」をキーワードに決めるなど、責任感や連帯感が生まれ、利用者の状況や実情を共有しケアサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社として20以上の項目について、能力・判断力・活動力等の勤務考課をし、評価の公平性に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格に応じた研修を『ふれんど』独自で設け、また、外部の研修も積極的に受講を勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内においての同一サービス事業所ごとの現場レベルの会議を定期開催し、利用者処遇を中心とした情報交換に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初にホームの見学をお勧めし、ホームの雰囲気を感じていただいて自分に合うかどうかを納得されてからの申し込みをお願いしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学後、申し込みを頂く際に、ご本人・ご家族からの状況・状態をしっかり伺い、今後どうなしてほしいか・どうしたいかなどを伺いながら、共に協力し合える体制を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設の小規模多機能施設の、サービス利用についての柔軟性を活かして、段階的にグループホーム入居に移行するといった方法なども提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の1日の流れのなかで、利用者の方ができること(掃除・料理など)をよく検討し、利用者個人個人が存在意義を感じられることを目指して支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密に取ることをこころがけ、利用者の近況を報告しながら意見をいただいたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の誕生日などには家族の方々の面会をできるだけお願いし、一緒に過ごす時間ももてるよう努めている。	利用者一人ひとりとの寄り添いや会話の中から、親戚や友人知人・馴染みの場所などを察したり汲み取ったりしている。利用者の希望で自宅へ電話を取次いだり、友人の訪問に家族の協力を得たりして馴染みの関係の継続を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの長・短所の把握と理解に努め、問題が大きくなるよう、早めに介入しプライドを傷つけないよう努め、ご家族の協力を得ながらよい関係が築けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出時に出会った時など声をかけたり、様子を伺ったりさりげないお付き合いが保てるよう心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の上手な方には、素早く対応が出来るが、意思表示の苦手な方・理解が不十分な方にはご家族のご協力を求め少しでも希望に添えるよう努めています。	暮らしの中で一人ひとりと寄り添い・見守り・会話や動作など日々の状態から理解し把握に努めている。利用者の希望で自宅に電話を掛けたり、花見・アジサイ見物・買い物・食事・趣味などそれぞれの思いや意向を汲みとり関係者が協力して本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報をいただき、一番の思いの部分の把握・理解に努め、共に大切にできるよう心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	週一回の主治医の往診を受け、常に状態を把握し、急変・異常を素早く気付き、主治医への報告・指示のもとご家族の安心を得られるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子をご家族に説明し、ご理解を頂きながらまた、ご意見・ご要望も取り入れながら、安心して暮らせるような介護計画を作成しています。	本人・家族や関係者からの意見や気づき、希望などを話し合いながら介護計画を作成し、アセスメントやモニタリングでADLの低下や状態によって「ケース会議」を行い、本人・家族に経過など報告し同意を得て、利用者の現状に即して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、日々の生活の様子・排泄状況・食事水分摂取量・身体状況等を具体的に、会話等は作文形式に記録しています。業務日誌には、大まかに記録した事項を朝・夕の申し送り時に口頭で報告、情報共有の漏れのないように努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所・小規模多機能施設の併設により合同行事への参加、自社の調剤薬局の薬剤師による内服薬の管理・病状に対してのアドバイス・ホームドクターの巡回等を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回のボランティアの方の訪問・協力を受け、一緒にフラダンスを踊ったり、歌ったりを楽しんだり、また地元消防の方には緊急時の対応策の講義・講習をお願いしたり、警察の方にはパトロールをお願いするなどの協力をお願いしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に一人ひとりのかかりつけ医から必要に応じて、ご家族と相談をしながら協力医宛に紹介状を頂いたり、薬剤師や職員が直接かかりつけ医と連絡が取り合えるよう情報交換を密にしています。	持病のある利用者は引続き、かかりつけ医の受診を家族が付き添いで受診し、職員は受診結果を共有している。協力医の往診が週1回あることから利用者・家族は協力医の受診を希望し、かかりつけ医の紹介状で協力医の受診に変更したり安心して適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のDSや居宅支援センターに看護師・顧問医もおり、薬剤情報や健康面についての相談・助言をもらえるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のこまめなお見舞いに伺いながら、ご家族との連絡や病院(主治医)との情報交換を密にしながら、本人・ご家族の意向を話し合いながら、退院に向けて調整・準備を進めるようにしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族の意向に沿いながら、主治医の意見・スタッフの受入れ体制やできること・できないことを明確に等の話し合いをし、本人にとって適切な方法・対応を検討しながら方針を立てています。	重度化や終末期に向けた方針は契約時に事業所で「出来ること・出来ない事」を明確に説明している。終末期の段階的な変化を想定し、その対応については家族や医療関係者と綿密に連携をとりながら、事業所で「どこまで出来るか」見極め、関係者全員が協力して適切な対応の支援を心がけている。	利用者の重度化や終末期に向け、事業所の力量や対応力・家族や状態の変化や「出来ること、出来ない事」をチームで率直に話し合い、個別に記録するなど、チームで連携を図り利用者・家族の安心な暮らしを支援される事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成や内部研修を通して緊急時の対応方法について学び、消防訓練などにおいて実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通して、実際の役割・対応・手順について話し合い、マニュアルをより実効性のあるものにできるよう努めている。	消防署の協力を得て、3事業所合同で火災を想定した避難訓練を行った。2階からの避難ではまず利用者の生命優先を判断した避難方法などアドバイスがあった。震災の教訓で充電式ランタンや、ヘルメットなどを備えたり、連絡網や防災グッズの充実など具体的な対策を検討している。	先の震災時は近所の人が様子を見に来てくれたり災害時の「ご近所力」が芽生えつつある。この縁を大切に関係を深められ災害訓練に近所の方の参加をお願いし、震災時の経験を活かし、アドバイスなど頂きながら、協力関係を築く第一歩となる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションを密に図り、個々の状態・状況把握とその方の『今』を理解し、孤独感・不安感を感じることのないようまた、プライバシーを損ねないよう見守り・声かけに努めております。	利用者は日中自主的に1階の居間で過ごしている。新聞を読んだり、趣味の編み物を編んだり、折り紙で飾り玉を作ったり、テレビを見て歓談したりして過ごしている様子を職員は静かに見守り、寄り添いながら一人ひとりを尊重しプライバシーを大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の尊重はもちろんですが、上手に思いを表出できない利用者の思いをできるだけ汲み取れるよう、職員間で関わり方を検討しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務に沿った形でなく、あくまで利用者の時間軸を優先に、臨機応変に対応するように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力のもと、身だしなみに対する個々の『こだわり』は大切にしながら、清潔感・季節感・見た目の大切さに配慮しながら、本人の納得と満足を得られるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム敷地内の畑に時期の野菜を作って新鮮にその時に美味しく頂けるあれこれを会話したり、食材の下ごしらえやテーブルを拭いたり、下膳をされたりのご協力をいただいています。	食事前に発声口腔ケアを実施して不安なく食事ができる様に準備している。利用者の食欲は旺盛で食事に専念している様子から楽しみが窺える。食材は外部から取り寄せているが、週1回程度はリクエストを取り入れたメニューの食材に変えるなど楽しみを工夫している。下げ膳やテーブル拭きなど力を発揮している利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材宅配業者の栄養士と相談し、食べ易い食材の提供を依頼しております。献立には、カロリー表示もあり、食事制限の方への調整等行っています。栄養状態は、主治医により1/3Mに採血を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアの他、食後の口腔ケアの実施の補助的支援・歯科科医の診断を受け必要に応じ早期治療につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を活用し、時間での声かけ・誘導等でその方のサインを見逃さない観察と、失敗のないよう失敗した時のフォローの対応に配慮しながらの支援に努めています。	自立排泄を基本に支援している。職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、見守りや、寄り添いで、自尊心を損なわないように声かけし自立排泄を支援している。1階のトイレが使用中の時は自らエレベータで2階のトイレに行くなどし、職員も静かに見守り寄り添いながら、自立排泄が続けられるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食・水分・適度な運動等の声かけを行い、慢性的な便秘の方は主治医への相談と指示により予防と対策に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隣接の小規模多機能施設の浴室を使用し平均3/wで実施するも、健康状態に合わせてまた、本人の希望・要望を聞き入れながら入浴を楽しんでいただいています。	入浴は週3回を基本としているが本人本位に希望を取り入れている。入浴を拒否される利用者はいない。着替えは自分で用意し、隣接する小規模多機能施設の温泉風の風呂に入浴している。入浴後の心地よい外気や他の利用者との交流も楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	マイペースで生活していただくことを基本に、昼夜逆転のある方は、特に眠らない声かけ・レクへの参加・散歩・外気浴・散歩や、精神状態の安定が保てるよう傾聴を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	多種の薬を服用される方も多く、誤薬事後の防止策も踏まえワンدوزし、薬剤師にはこまめに情報提供しながら、個々に合った内服薬の管理し、服薬経過・確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴と得手・不得手の部分の把握・理解をしながら、それぞれが活かせるようまた、笑顔が多く見られるような支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や環境面(気温・天気など)に配慮しながら外食・買い物の外出行事を毎月企画したり、ドライブ・散歩など頻回実施して、季節感を味わったり気分転換につなげています。実施状況は毎月家族に報告しております。	季節や天気を考えながら、一人ひとり体調に合わせて外気浴・散歩やドライブに誘ったりしている。散歩は施設周辺の話や地域の人達との会話なども楽しみにしている。毎月の外出計画の候補地を選んでもらったり、利用者の希望や行きたいところを募ったりして、外出が楽しみになる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がお金の『大切さ』を理解されていて、ご家族からお預かりしているから、という安心感と『いつでも使える』という楽しみもっていただけるようにしています。ご家族には、領収書を元に『お小遣い帳』の作成し報告を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話・ご家族からの電話等の取次ぐことで本人の不安を取り除くことに繋がるので、積極的に行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中の大部分の時間はホール(居間)で過ごされる為、お互いの関係性に配慮した座席の配置に努めています。また、居室やトイレへの動線上に障害物を置かないなど、安全面に留意しています。	玄関から居間に入ると、廊下の隅まで視界に入り、自然に見守りや寄り添いが出来、安心と暮らしの温もりが伝わってくる。東側の掃きだし窓の外には今年もゴーヤのすだれが清涼感を演出し和やかな雰囲気である。利用者はエレベータを自由に操作して2階と往来している。フロアやトイレは何時も消毒や消臭に気をつけ清潔にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの利用者の方々が気兼ねなく過ごせるように、職員が自然に上手く間に入るようなコミュニケーションを図っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れ親しんだ家具・小物をご持参いただき、少しでも安心して暮らせるようご家族にご協力いただいております。	各部屋は嵌め込み式の家具で、整理し易くなっているが、利用者は馴染みの使い慣れた家具や小物を持ち込み、自宅とのギャップを少なくしている。夫の遺影や、家族の写真、孫の手紙などを飾り、自分らしく暮らせる部屋づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で利用者のADLをはじめとした状態の共有を常に計り、その利用者に応じて個別個別の支援ができるように心がけております。		